

## Libro de Alexandre (IX)

Translated by OTA Tsuyomasa

### Abstract

The Libro de Alexandre is a great epic poem which consists of 10700 lines and was supposedly written in the first third of the thirteenth century. This poem is not an ordinary biography of Alexander the Great, because the story is interrupted by many, diverse and various episodes like those of the Trojan war which took place about 1200 years B.C. according to the historians and those of the Old Testament. Alexander the Great is a personage of the fourth century B.C. and this poem is written in the thirteenth century AD. So in this work by unknown author, perhaps a cleric, mixture of ages is seen everywhere and that is the most remarkable characteristic of this epic poem.

This work is written in the erudite form of *cuaderna vía* (four-fold way), style of which has been called *mester de clerecía* (scholars' art) as compared with *mester de juglaría* (minstrels' art).

This time translation is made from the strophe 1373 to the 1562.



## アレクサンダーの書 IX

太田 強 正 訳

アレクサンダーの書は 13 世紀の最初の約 30 年の間に書かれたと推測される 10700 行からなる大叙事詩である。

これは 33 歳で早世したアレクサンダー大王の伝記であるが、普通の伝記とは異なり、大王が活躍した紀元前 4 世紀、トロヤ戦争が起こったと言われる紀元前約 1200 年、そしてこの叙事詩が書かれた紀元後 13 世紀の話が混然として描かれている。

作者は無名の聖職者であろうと言われているが、Gautier de Chatillon の *Alexandreis* を底本として、その他の伝記、伝承を基にこの叙事詩を書いたようである。

作品はメステル・デ・クレレシーア (*mester de clerecía*) と呼ばれるもので、中世スペインの主に聖職者による教養階級の文学の流派のものである。これは文字の読み書きのできない吟遊詩人 (*juglares*) によるメステル・デ・フグラリーア (*mester de juglaría*) と対をなすものである。

形式はクアデルナ・ビーア (*cuaderna vía*) と呼ばれる 1 行 14 音節同音韻 4 行詩である。

今回は第 1563 連から第 1761 連までを掲載する。

訳は言葉が違うので韻を踏ませることはできなかったが各行ごとに付けた。そのため日本語として通るように原文にない接続詞などを補わなければならない箇所があった。

人名・地名などの固有名詞は原則、原文に従いスペイン語読みとし、日本で普通用いられているものについてはそれに従った。

翻訳に当たっては現代スペイン語訳の他、英訳を参照した。また部分訳ではあるが日本語訳も参考にした。

1563 アレクサンダーはスサを征服すると

有名な町ウクシオン<sup>163)</sup>に襲いかかりました

すぐに入城しようと思いました、しかし我が剣によって

その町を得るのは相当高くつきました

1564 そこを支配していた王はメタデスという名でした

ダリウスの敗北については彼は嬉しく思っていなかったことは知っておくべきです

両者は友で、ダリウスのことはよく知っていたからです

彼の復讐をしたいと思いましたが、それは神が望まない事でした

1565 メタデスは、町はしっかり防備を施されていたので、大胆になっていました

そして中は人々で一杯でしたから

町は高台で岩の上に建てられていて

ギリシャ人たちには支配されないだろうと思っていました

1566 アレクサンダーがそういう状態であることを知ると

言いました：《神はこれが私が考えていたことではないのをご存知だ

メタデスの側からのこのような事態を予想していなかった

しかしこの大胆さは何の役にも立たないだろう》

1567 ウクシオンは包囲され、アレクサンダーは怒っていました  
激怒していたので、それを攻めることを命じました  
メタデスはすべてにおいて道理にかないう意周到でした  
しかし神が怒ると策略は役に立ちません

1568 あらゆる所で熱を帯びていました  
人々は皆恥を失い  
死の恐れはまったくなくなっていました  
彼らには傷つけることに憐れみも節度もありませんでした

1569 事がこのように運んでいるときに彼らはやって来ました  
十二人の男たちが急いで王のもとへ駆け寄って来て  
言いました：《王様、何を争っているのですか  
ご自身どれだけ被害を受けているかお分かりのはずです

1570 どんな戦によってもあなたは町を占拠することはできません  
むしろあなたは兵の半分を失うことになります  
しかしもし私の言うことに耳を傾け、信じるなら  
我々はあなたに町を手中にすることができる策をお教えしまし  
う

1571 我々は土地の者で、入り口を知っています  
我々は出口を知っていて、抜け道を行けます  
もしあなたが我々に兵をくだされば、彼らにハシゴを与えましょ

う

気付かれたときには、彼らは町の中にいるでしょう》

1572 王はすぐ家来のタウロンを呼びました

彼は勇敢で、それは何度も証明されました

王は言いました：《タウロン、私はお前に任せたと知るように

これらの者と行って命令を実行するように

1573 しかし私はお前にこの私の旗を持っていてほしい

私が死んでいるかもしれないし、あるいは重傷を確かに負っているかもしれないということをしっかり知っておいてほしい

もしお前が町の中に着く前に

ウクシオンの中にプシファルがいなければ<sup>164)</sup>》

1574 王はその事を聞く耳を持たない者に言ったのではありませんでした：

タウロンはすぐ行くことにしました

より良く身を隠すために、密かに入りました

しかし事前に敵に気付かれ

押し戻されて町に入ることができませんでした

1575 タウロンは町に入れないと見ると

ほとんど自分の天幕に戻っている方が良いと思いました

そしてそこに魂を残す方がましだと言いました

空手で主人のもとに帰るよりは

- 1576 タウロンは敵に激しい戦いを挑み始めました  
しかし敵はそれでも彼に侵入させようとはしませんでした  
彼は多くの激しい打撃を受けましたが  
死ぬつもりでいたので、全然意に介しませんでした
- 1577 アレクサンダー王は他の場所で  
約束した言葉を守っていて  
多くの高貴な戦士たちを倒しました  
しかしそれでも城塞に入ることはできませんでした
- 1578 しかし大いに敵を負傷させ苦しめることができたので  
タウロンを少し休ませました  
すると彼に勇気が増していき、元気づくことになり  
敵は不承不承彼に門を開けることになりました
- 1579 敵は皆他の事に非常に気を使わなければならなかったので  
タウロンを考えに入れることができませんでした  
それで彼は城塞の中に入り込むことができ  
一番高いところに軍旗を立てました
- 1580 成り行きを知っていたアレクサンダーは  
いつ軍旗が見えるかと塔を眺めていました  
軍旗が姿を現わすのを見ると  
近くにいるすべての人々にそれを示しました

- 1581 ウクシオンの人々は皆ひどく気を落しました  
彼らは軍旗を見たとき、ひどく落胆したのです  
ギリシャ人たちは喜んで、さらに勇気を得ました  
彼らは新参者のようでした
- 1582 議会でメタデス<sup>165)</sup> と他の者たちは  
その事について方法も助言もどうすべきか分りませんでした  
各々張り詰めていて  
あんなに大きな城が彼らには小さく思えました
- 1583 その町には一つの素晴らしい塔がありました  
それは町外れにあって、すべての塔から離れていました  
高さにおいて雲と同じに見えました  
土台はしっかり、強固で、健全でした
- 1584 メタデスと同胞の者たちは  
事が悪い方に向かっていると思いました  
彼らは少しずつその塔に近づいて行き  
他の事は置いて中に入りました
- 1585 ギリシャ人たちは町を征しました  
中にいる者たちは皆破れたのですから  
塔に逃げ込んだ者たち以外は  
皆鎖に繋がれ、縄で縛られました



- 1586 直ちにメタデスは王のもとに貴族を送りました  
三十人の立派な男たちが伝言を持って行きました  
喜んで王に誉れと敬意を捧げ  
忠実な主従関係によって永遠に彼のものになると
- 1587 彼らの望まない返事が返されました  
どうしても死を免れることはできないと  
彼らが忠義のために死のうとしている時に  
それを得る機会を見つけたのです
- 1588 メタデスは苦悩していました、どこへ帰ったら良いのか分かりま  
せんでした  
しかしついに良い考えにたどり着きました  
ダリウスの母に頼むべく使いを出しました  
彼らのためにお願いし、彼らを解放させるようにと
- 1589 シシガンビス<sup>166)</sup>はそうしたいと思っていましたが、大胆ではあ  
りませんでした  
そのように大事なことを王に要求するほどには  
その哀れな女は侮辱されるのを恐れ  
嘲られて、何も獲得できないのではと恐れていました
- 1590 しかし王が非常に慎重な人だったので  
彼女はそれ故思い切って運に賭けました  
へり下った様子で王のいるところに入って  
メタデスの気違い沙汰を許すよう頼みました

- 1591 アレクサンダーはいかに彼女が疑っていたかが分かり  
その女王に対し少し怒っていました  
王は喜んでそうすると伝言させ  
しかしもし疑いを抱いているなら、彼女が満足する結果にはなら  
ないだろうと伝えました
- 1592 王はメタデスを町ごと許しました  
彼らの物や土地全部を引き渡し  
彼らが完全な平等を達成するように命じました  
—このような善行を行う王が祝福されんことを—
- 1593 母親が息子から、妻が夫から  
そのような大層な捧げ物を得ることはあり得ないないでしょう  
ダリウスも母親にそれほど気前が良くはなかったでしょう  
彼女が腹を痛めて産んだにもかかわらず
- 1594 アレクサンダー王はこのように勝利を納めていましたが  
ダリオスの逃亡は忘れませんでした  
王の強固な意志は鎮まらず  
日に日にさらに怒り狂っていきました
- 1595 王は大きな兵力を持つパルメニオに  
財産を約束して平地に行くことを命じました  
お前について、ダリウスよ、どの地にいるのか知るために  
ペルシャに留まったのか、セレス<sup>166)</sup>に行ったのかを知るために

- 1596 王は臣下とともに山々に登りました  
そこには奇妙な山岳民族が住んでいます  
ひょっとしてダリウスが山小屋にいたとしても  
彼の知恵も術策も何の役にも立たないでしょう
- 1597 歩みは困難で、道幅は狭く  
兵士たちは非常に勇敢で、身軽でした  
人々は彼らに色々な方法で甚大な被害を与えました  
石や岩や狩猟の槍で
- 1598 山頂に着く前に  
兵士たちの多くを失っていました  
死者は喜んで無償で死んでいったわけではなく  
敵はついに鎮圧され敗れました
- 1599 完璧な王は山を下り  
見捨てられた王国ペルシャに向かおうとして  
直ちに首都ペルセポリスに行きました  
そこで戦利品をたっぷり得たバルメニオを見つけました
- 1600 ギリシャ人たちは今までこんなに行軍することもできなかったし、  
こんなに知ることもできませんでした  
こんなに与えることも約束することもできませんでした  
ダリウスについて何の情報も得られず  
彼の王国を得ることだけを望んでいました

- 1601 町は王に対して防衛できませんでした  
持ち主がない物のように入城することになりました  
王は町を基礎から破壊し、焼くように命じ  
人々は町を再び建てることも、復興することもできませんでした
- 1602 ペルセポリスは非常に高貴な町で  
流れの豊かなアラクセス川のほとりにありました  
このように破壊され滅ぼされ  
その痕跡の一つも見当たりません
- 1603 アレクサンダーはその町に昔から怒りを燃やしていました  
というのはペルシャの王たちが遠征に出るときに  
そこでまず夜を徹する習慣があり  
そこに入念に作った武器を運び込んでいたからです
- 1604 そこからセルシス<sup>168)</sup>が出発したのです、ギリシャを征服し、隷  
属させ、抑圧したときに  
そしてギリシャ人たちは侮辱され嘲笑されるのが常でした  
それ故アレクサンダーはその町を許しなくなかったのです
- 1605 ギリシャ人たちはその町に非常に豊富な富と  
高価な衣類、貯蔵された宝物を見つけました  
衣類に関しては多くの死者が出ました  
皆力ずくで奪いあったのです

- 1606 年少者が年配者に敬意を払わず  
兄弟同士がお互い従いませんでした  
騒ぎと不和が大きくなりました  
彼らは抑えの効かない欲望に駆られてたのです
- 1607 ペルセポリスの富が焼かれたもう 1 つの理由がありました  
アレクサンダーはそこに三千人の臣下を見ました  
彼らは牢に入れられ、体を切り取られていました  
皆重要な四肢を切断されたのです
- 1608 その皆の中で健全な者は一人もいませんでした  
少なくとも足や手を失った者  
目や鼻や上唇を失った者や  
額に（焼かれた）鈴で印をつけられた者
- 1609 アレクサンダーは涙を流し、哀れみが彼を打ち負かしました  
彼は心から悔やんでいることを示し  
彼らをすべて非常に優しく抱きしめました  
悲しみで厳しさをすべて忘れました
- 1610 王は言いました：《友たちよ、今お前えたちが置かれた状態は  
私よりもお前たちをより苦しめてはいない、よく分かってくれ  
しかしお前たちが何をしたいのか言って欲しい  
私はお前たちが私に望むことはなんでも許可する

- 1611 もしお前たちが故郷へ帰りたいなら  
あるいはこの地に留まりたいなら  
お前たちが合意して話しなさい  
お前たちの望むことは、私は許可したい》
- 1612 痛々しい仲間は相談するためにそこから出ました  
特定のことにについて合意を得るために  
しかしすぐに彼らの間で不一致が生じました  
お互い何も合意できませんでした
- 1613 ある者は帰りたがり、他の者は留まりたがり  
何事も一つにまとまりませんでした  
お互い耳を傾けようとせず  
一つのことに道理を与えることができなかったのです
- 1614 彼らの中で雄弁な一人の男が立ち上がりました  
—彼は、ガルテールが言うように、エウティシオと言う名でした  
—  
彼は明敏な雄弁家で、しっかりと聞いてもらえました  
達者な訴人として彼は自分の論拠を話し始めました
- 1615 《友たちよ、私はお前たちに私の考えを話したい  
もしよかったら耳を傾けるように  
我々がいかに争い、言い合うことを欲しても  
最良の手段に至るのはたやすいものだ

- 1616 大恥をかいて施しを請いに行くとしても  
我々は今どこにも行くところがない  
私はそんな事は想像できないし、考えられない  
どんな顔をして我々の故郷に帰れだろうか
- 1617 我々を憎むものたちは我々に復讐するだろう  
我々の友たちは日々大槍を見るだろう  
彼らは酷い目に会い、我々はまったく改善を見ないだろう  
誰もそのような事態に満足すべきではない
- 1618 人に訪れると  
死や被害や重傷を負う時が  
同情した友たちが涙を流す  
この事だけで彼らはその人に大きな贈り物をしたと思う
- 1619 人が涙を拭うや否や  
叫びや悲しみは直ちに忘れられ  
涙の流れは急速に止まる  
なぜなら早くあふれ出れば、早く乾くからである
- 1620 我々の妻たちは我々のことを非常に悲しむだろう  
彼女たちを抱きしめる腕がないのだから  
五体満足であった時に私を愛せなかった女が  
今や私に目もくれようとしないだろう

- 1621 安らぎとテーブルから我々は排除され  
癩病患者のように離れた場所が与えられるだろう  
子供達は親のために蔑まれ  
非常に苦悩し、われわれは苦しむことになるだろう
- 1622 不幸から抜け出ることができない者は  
できるだけ身を隠すべきだろう  
見えない者を嘲弄することはできない  
そういう者たちには孤独のうちに生きるのが相応しい
- 1623 私が理解しているところでは、不幸な者は  
知られている所ではさらに困ったことになる  
誰だか知られていない所では、それほど心配はいらない  
自分の不運に対してなんらかの避難所を持っている
- 1624 皆んなまとまって、要望を出そう  
男たちよ、こういう騒ぎはやめよう  
住む所が与えられて、食が足りるように  
神にも人間にもそれは良く思われるだろう》
- 1625 エウティシオが言い終わると、すぐにレセウスが立ち上がりまし  
た  
—アテネ出身の弁の立つ男です—  
彼の言ったことすべてに反対しました  
レセウスの言及しなかった箇所は一つもありませんでした



- 1626 レセウスは言いました：《皆さん、私の言うことを聞いてくれる  
なら  
短くこのことに反論したい  
私は皆さんの中で一番知識のない者ですが  
彼の言ったことすべてに答えたいと思う
- 1627 彼是我々のすべての友達を侮辱し  
我々のの妻子を賤しめた  
友達が全部そんなにひどいなら  
我々は皆悪く厳しい時に生まれたことになる
- 1628 不実でないちゃんとした友は  
幸運によっても不幸によっても決して変わらない  
どんな災いが来ても約束を違えない  
苦しい時も嬉しい時もいつも同じだ
- 1629 もし我々に災難が訪れ得たとしても、災難に遭うことがあり得た  
としても  
そういう事は起こらなかった、我々に相応しかなかったのも  
また起こらなかったのは我々が悪を為したからでもなく  
主人である王に我々が仕えてい  
たからだ
- 1630 日々戦いや戦闘にある者は  
不幸にして目、鼻、あるいは手を失うことがある  
五体満足でなくても恥じはしない

かえってその事を誇り、自慢に思う

- 1631 もし我々が戦いを挑んだ敵が  
思わぬ危害を我々に加えたとしても  
我々を恥じ入らせる不名誉とはならない  
我々が恐れずに故郷に帰ることができないほどの
- 1632 人が故郷ではより気楽に暮らせる  
死ぬ時には親類が式を挙げてくれる  
その骨や魂はより良い休息を得る  
多くの親類が周りにいる時には
- 1633 この地の男たちは見知らぬ者を  
葬儀の後で傍に放っておき  
豚のように墓穴に投げ入れ  
誰も“ここに誰それが眠る”とは決して言わない
- 1634 しかし残酷な心を持った者は  
他の者たちも哀れみがないと思う  
悪意に満ちた自分自身を見るように  
他の者たちにも慈悲がないと思う
- 1635 さほど恥知らずではないのだろう  
世間から軽んじられるのを恐れて  
教会にロウソクも供物も持って行かない  
そして時々弔鐘を鳴らさない女たちは（注 175 参照）

- 1636 息子たちや娘たちは目に優しい  
両親は彼らといて喜びを得る  
その上息子や娘たちは両親を憎めない  
死ぬのをあからさまに放って置くほどには
- 1637 友たちよ、私を信じ耳を傾けようとする者は  
見知らぬ土地にブドウを植えたりはしないだろう  
故郷にどのようにして帰ることができるか模索するだろう  
自分の家を見捨てようとする者は残酷だ》
- 1638 レセウスは話を終え、人々が立ち去ることを望みました  
しかしそこには彼を信じようとする者はわずかしきありませんでし  
た  
皆はアレクサンダーに頼むことで一致しました  
その地で生きていく術<sup>すべ</sup>を彼らに与えることを
- 1639 王は彼らにそうするように助言し  
そこで彼らに仕える男たちと  
彼らが生活していける平らな土地と  
持ち運べるだけの金銀を与えました
- 1640 王はこれらすべての事を片付けると  
完璧な王国インドに向けて出発しました  
ダリウスがそこに行ったかどうか知るために  
そして自分の任務を完遂すべく民々を征服するために

- 1641 ダリウスはこの時、非常に打ちひしがれていてましたが  
すでにわずかな兵とエブラクタナ<sup>169)</sup>に到着していました  
それは非常に価値ある町で、大きな伯爵領の値打ちがあり  
そこでまだ強力な軍を組織しようとしていました
- 1642 ダリウス王はバクトリア人<sup>170)</sup>の地に行くことを望んでいました  
—良き多くの民々が海の近くにいました—  
彼らに自分の苦しみを語り、嘆き  
王国を守るために自分と同行してほしかったのです
- 1643 王が出発の準備をしていると  
蠟で封印した一通の書状が届きました  
なんとかして手段を講じることを乞うものでした  
というのはギリシャ軍がメディアに入っていたからでした
- 1644 これ以上心配な知らせは届くはずはありませんでした  
—それを届けた者にもあまり感謝しませんでした—  
考えていた事すべてを変更しなければならなくなりました  
援助を求めるられうような時ではなかったからです
- 1645 ダリウスは十分に用意ができた大軍を招集しました  
しっかり武装した五万人以上の兵を  
さらに三度目の賽を投げようとしていました  
しかし運命には別の事が書かれていました

- 1646 呪われた日の時間が近づいていました  
ダリウスが死から逃れることができない時が  
大きな叫びを発する小鳥が  
彼の天幕の周りを離れずに夜毎飛んでいました
- 1647 王は自分を殺すことになる者をそばに連れていたのです  
その者からダリウスは自分自身をまともに護ることができません  
でした  
しかし神の命じることはこのように起こるものなのです  
彼ですら裏切りを回避できませんでした
- 1648 王は自分の家に偽りの裏切り者を抱えていたのです  
召使から彼が領主にした者たちです  
彼らはすでにその事を心の中で考えていました  
そのような偽りの男たちで地は割れるに違いないでしょう
- 1649 おお、哀れなダリウスよ、お前は非常に悪い判断を下したのだ  
その者たちにそのような大きな権力を与えた日に  
そして偽りのナルボソネスを不幸にも知ってしまった  
しかし、我々がなんと言おうと、運命でそうなったのだ
- 1650 運命はお前を敵から解放した  
しかしお前に殺すべき偽りの友たちを与えた  
もしお前に古い諺を信じる気があったら  
卑しい乞食どもにそのような力を与えなかったろう

- 1651   ダリウスは兵士たちに自分のもとに来るように命じました  
        晴れやかな顔でした：内心を隠したかったのです  
        ダリウスは儀礼に従って言いました《祝福を》<sup>171)</sup>  
        彼らは返しました《ご主人様》<sup>172)</sup>：答え方を知っていたのです
- 1652   《友たちよ—と王は言いました—この世と時代は  
        常にこういうものだった、あるいは良かったり、あるいは悪かっ  
        たり  
        あることの後には、常に他のことが来るものだ  
        悪いことの後には良いことが、そして良いことの後には悪いこと  
        が
- 1653   運命の齒車は常にこのように回ってきた  
        ある者たちを高め、他の者たちをおとしめた  
        大いに高めた者たちを、すぐに引き摺り下ろした  
        引き摺り下ろした者たちを最後に押し上げた
- 1654   私は重大な罪によってひどく引き摺り落とされている  
        私とお前たちは不運に見舞われ齒車の下になっている  
        よそ者たちが壁に押し上げられている  
        私たちと彼らは以前とは立場が変えられている
- 1655   しかし齒車はじっとしていることはできないと私は思う  
        運は移り、コインの面は変わるだろう  
        我々の運は満足のいく穏やかなものになるだろう  
        そしてよそ者たちが我々に租税を払うことになるだろう

- 1656 誠にお前たちに言う、このようにお前たちに約束する  
お前たちが生きている間は、私にそばにお前たちを置く  
私の王国については、私は何とも思っていない  
お前たちのためでなければ私は決して復讐はしないだろう
- 1657 お前たちが尽くした忠誠は  
この世の男たちにおいては決して聞いたことがなかった  
天の創造主にそれが感謝されんことを  
その方はすべてを知り、何も忘れることはない
- 1658 忠誠の故にお前たちは大きな辛酸を舐めた  
両親を失いながらも恐怖を鎮めた  
何度も敗れたお前たちの王を護った  
このことで創造主によって褒美を与えられんことを
- 1659 もしマセオがこのような忠誠を尽くしたなら  
バビロニアはあんなに早く落ちなかったろう  
己が君主をあのように敗北させる者は  
悪い後生と悪い現世を持つように
- 1660 我々のもとを出てギリシャ人の側に移った者は  
この世でそれほどの悪事を働いたことはなかった  
アレクサンダー王は自分の手に接吻した者を  
全然評価しないだろう、彼らが偽りだと知っているから
- 1661 しかしこういったことすべてをもってしても、私はお前たちに他

のことを言いたい

我々は来るはずのことを予見すべきである

不幸は人をそれほど害することはできない

もし起こる前にそれを知ることができれば

1662 もし私がお前たちと共にいることにそんなに信頼を寄せていない  
なら

私が言いたいことは何もお前たちに言わないだろう

しかし私はお前たちが皆立派な人間であることを知っている

私のすべての事をお前たちに何も隠しはしないだろう

1663 ギリシャ人たちは私を捕らえるためにやって来た

我々が逃げられる場合でも時でもない

私は彼らを待つて戦場で死にたい

このようなひどい恥を抱えて生きることになるよりは

1664 私は彼の情けを受けたくないし

彼の手から恩恵を受けたくない

彼らは私の首と共に王国を持ち去ることがでる

他の方法では彼らは私を扱うことができない

1665 今まで私を護ってきたお前たちは

獲得したお前たちの名誉を良く護ように

用意を整えて死ぬ善人のように振る舞うことで

そういう者は完ぺきな名誉を持って命を終えるものだ》



- 1666 すべての臣下の中で誰も彼に答えませんでした  
彼の苦悩に驚いていたからでした  
ナルボソネスとベッススは髪の毛を掻きむしっていました  
心が毒に満ちていたからでした
- 1667 アルタバトゥス<sup>173)</sup>が答えましたが、何にもなりませんでした  
彼は言いました：《ご主人様、良くおっしゃいました、もっとも  
な事です  
あなたが受けた屈辱に我々は心が痛みます  
我々が皆死ぬかしっかり報復するかです
- 1668 我々のある者たちはあなたの血で、他の者たちはあなたの召使い  
です  
我々は皆あなたに仕える用意ができています  
さらにそんなにたやすく我々は破れないでしょう  
あなたが被害に遭う前に、我々が損害を被るでしょう》
- 1669 ナルボソネスが立ち上がって、ずるく立ち回ろうとして  
その不実者はダリウスに助言者になりました  
《王様、聞いてください—と偽りのおべっかつ使いは言いました  
私はあなたに私の考えどうり確かな助言をしましょう
- 1670 王様、あなたは不運によって苦境に立たされました  
あなたは悪い時にギリシャ人たちに戦いを挑みました  
事はまったくひどい所まで来ていて  
あなたはまだ厳しい戦いを続けています

- 1671 幸運の女神があなたを見放して  
アレクサンダー王を養子にしました  
運がまったく変わってしまい  
元に戻るのには遅くなるか、あるいは決して戻らないでしょう
- 1672 事を達成することができなくとも  
といってそんなに早く投げ出すべきではなかったのです  
多くの助言を検討し、捜すべきです  
王様、もし同意されるのなら、ある事をしてください
- 1673 高貴な出のベッススに王国を与えてください  
彼にこの残酷な連中との戦いをさせてください  
私は神を信頼しているので、我々は運を変えることができるでしょう  
あなたは讃えられ、苦悩はなくなるでしょう
- 1674 最後に事が成就した時に  
あなたは手に入れた地であるあなたの王国に帰るのです  
もし不運にもあなたの軍が敗れても  
あなたにはまったく不名誉にならないでしょう》
- 1675 ダリウスへの助言は彼の心にのしかかり  
彼はそれが裏切りの始めだと良く分かりました  
ダリウスは彼に剣で切りかかり、裁きを下そうとしました  
しかしアルタバトゥスがダリウスにその時ではないと言いました

- 1676 《ご主人様—とアルタバトゥスが言いました—現在は  
我々が争う道理がありません  
私は皆が同じ心を持っているのは良く分かっています  
神が合図するまで我々が耐えるのがより良いことです
- 1677 歯車を回らせておいてください、時が過ぎるままにしておいてく  
ださい  
あなたの恨みを覆い隠して、剣を収めてください  
我々の事がうまく行かない今  
裏切り者どもは我々に向かって襲いかかって来るでしょう
- 1678 ギリシャ人たちは近くに迫って、猛り狂っています  
あなたは民々を失い、兵は数少なくなりました  
もし残った者たちをあなたが怒らせたら  
我々もあなたも皆滅びる事になると承知してください》
- 1679 ベッススは自分の気持ちを隠すために怒って見せ  
理屈に合わない事を言ったとナルボソネスを責めました  
しかしそれでも、もしダリウスが黙っていなかったら  
確実に斬首され、死んでいたでしょう
- 1680 陰謀者たちはその悪意を実行に移すことはできませんでした  
恐れよりも恥ずかしさが彼らを妨げていました  
彼らが王の前に出る時には、恥じ入っていました  
というのは王の眼光は鋭く、厳しいものがあったからです

- 1681 彼らは邪悪で忠義にもとる方法を思いつきました  
どうにかして彼を生かしたまま捕らえておき  
鎖に繋ぎ、捕虜にしておくという方法です  
—創造主が王を嫌っているのだとてっきり思われました—
- 1682 声を殺し、音を立てずに  
嘘つきどもは王の前に進み出ました  
目に涙を浮かべ、弱々しい風体で  
もうすべてを後悔していると言いました
- 1683 良き王は彼らが本当にことを言っていると思いました  
彼らの言葉は理解しましたが、その意図は理解しませんでした  
涙ながらに彼らを許し、友好関係を確かなものにしました  
—神がこの大きな哀れみを持つ男を許し給わんことを—
- 1684 翌朝大地が照らされると  
ダリウス王は野営地をを移すように命じました  
人々はギリシャ人たちの不意打ちを恐れていました  
もっと安全な宿営地を確保しに行ことを望んでいました
- 1685 皆すでに裏切りに気付き始めていて  
皆ブツブツと一つの事を言っていました  
ある者たちは同意を、他の者たちは不同意を口にしていました  
民々の間で騒ぎはひどくなっていました

- 1686 ギリシャ人の中の一人の非常に幸運な王子<sup>174)</sup>が  
—パドロンという名で、神が彼に十分な休息を与え給わんことを  
—  
彼らの計画が邪悪で危険だと思い  
言いました：《神聖で力のあるご主人様、私をお護りください》
- 1687 彼は頃合いを見て王に近づきました  
他の者たちから見張られているのを恐れたからです  
彼は言いました：《御主人様、どうか怒らないでください  
私はあなたに私の意にそぐわないことを申し上げたいと思います
- 1688 あなたたの臣下たちは裏切ってあなたを殺そうとしています  
今日こそそれをあなたが証すべき日です  
神を除いてはあなたを助けることができる人はいません  
しっかりお知りおきください：あなたは逃げることはできません
- 1689 はっきりした裏切り者であるナルボソネスとベッススは  
両者ともあなたを殺すことを誓ってあなたに襲いかかって来ます  
彼らはあなたに対して兵力を集めています  
夕食を取ったらあなたに襲いかかってくるとお考えください
- 1690 私が一番良いと思うことをあなたに助言したいと思います  
決して彼らと共に野営してはいけません  
私たちの天幕をあなたの近くに据るよう命じてください  
神の御慈悲を持って私があなたをお護りしたいと思います

- 1691 もし私がこの邪悪な奸計に気づかなかったら  
私はあなたをお護りしようとは思わないだろとご承知おきください  
しかしもし私の助言に従わなければ、私のヒゲに賭けて  
あなたは生涯安眠できる夜を迎えることはできないでしょう
- 1692 私はアレクサンダーを棄てて、あなたにお仕えに参りました  
御主人様、もしあなたを失ったら、私は行く所がなくなるでしょう  
あなたが亡くなる前に、私は死にたいものです  
王様、私はこれ以上申し上げることはできないでしょう》
- 1693 良き皇帝は次のように答えました  
《パドローンと彼は言いました―、お前に感謝し、お前を大切に  
思う  
お前がお前の主人を護りたいと望むように  
そのようにお前が常に創造主に守られるように
- 1694 しかし私はむしろ死ぬか身を危険に晒したい  
私の臣下たちを何も過ちを犯さないうちに罰するよりも  
もし神によってそうなるように判断されるのなら  
我々はどんなに頭を使っても逃れることはできないだろう
- 1695 私は彼ら二人を小さい頃から育て  
息子のように大きな愛情を注ぎ  
彼らをその祖先よりも強力にした

わたしに対して彼らがそのような罫を仕掛けるはずはないのだが

1696 私が育てた者たちを疑うことはできないだろう  
そうすれば大きな罪を犯すことになると思う  
何が起ころうと、私は思い切って行動したい  
しかしお前の助言では良くならないだろう

1697 お前の助言と善意に感謝する  
どんな人間もこれ以上の忠誠を尽すことはできないだろう  
お前の善良さはいつまでも語り継がれるに違いない  
お前の悪口を言う者は大きな悪行を犯すことになるだろう》

1698 このように忠実な臣下に神によって天国が与えらんことを  
主人を救うために心を注いだのですから  
しかし神の徳は別のことを欲しました  
ダリウスは神が約束した事を被ることになるのでした

1699 ナルボソネスとベッススは一準備ができていないと良いのですが  
—  
両者はそのような邪悪な計画において一致しており  
どのようにするかはもう話し合っていました  
最初の計画からは少し変わっていました

1700 彼らはすぐに王を殺すこともできたでしょう、しかし他のことを  
しようと考えました  
暗くなったら、王を生きたまま捕らえ

アレクサンダーに、慈悲を乞うために、渡す  
王が彼らから身を護るにはそれしかありませんでした

1701 夕方になり、野営をしようとする時  
彼らは王に近づこうとせず  
端に自分たちの天幕を据るように命じました  
しかし不忠者たちは決して武器を離そうとしませんでした

1702 ダリウスはすでに裏切りを目で見て知っていました  
パロドロンが彼に言った言葉を悟っていました  
彼には護ってくれるものなど全然残っていないのを見て  
神に両手を上げて祈りました

1703 《主よ—と彼は言いました—あなたはすべての望みをご存じです  
あなたにはどんな秘密も隠しておけません  
諸王国とすべての都市はあなたのものです  
主よ、私の悪行をお気に留めないでください<sup>175)</sup>

1704 私があなたに正しい行いもしなかったし、お仕えもしなかったこ  
とは良く承知しています  
然るべく、私の務めも果たませんでした  
私は多くの悪徳に満ちた非常な<sup>つみびと</sup>罪人です  
あなたに嫌われたら、私は生きて行くことを望めません

1705 しかし私が思うに、私の認識によれば  
私は孤児から相続権を奪ったりしなかったし、協定を破りもしま



せんでした

私は常に平和を愛し、論争を避けた

常に戦争を回避し、和睦を愛しました

- 1706 私は一度も人妻と不倫したことはないし  
寡婦に対しても人妻に対しても法を犯したことはありません  
主よ、私は無人の土地すべてに人をちゃんと住ませました  
そして民のすべての人々の暮らしが向上しました

- 1707 主よ、私の言うことにウソがあるなら  
あなたの敵として死ぬのは当然です  
しかしもし私が正しいことを行い、つまりあなたの命令に従って  
いるなら  
主よ、<sup>こんにち</sup>今日あなたが私と共にあるのは正当なことです

- 1708 もしあなたによってこれらの裏切り者たちに命じられたのでなければ  
私が彼らのために<sup>こんにち</sup>今日こんなにひどい辱めを受けることはないで  
しょう  
しかし私はあなたに見放されていることは知っています  
私は不運な人間として悪い死にかたをするでしょう

- 1709 私が死を逃れることができないのなら  
私自身の手で死にたいと思います  
卑しい男の手にかかって終わるべきではありません  
“王がダリウスを殺した”と詠われるでしょう》

- 1710 王は大きくてよく研いである投げ槍を取りに行き  
恐れることなく体に突き刺したのでしょう  
しかし天幕に若い宦官がいて  
大きな叫び声をあげました、とても驚いたからです
- 1711 事の顛末が語られたので  
皆裏切りが遂行されたと思っていました  
すべての平民たちは即座にくじけて  
各々自分の故郷へ逃げ帰ろうと思いました
- 1712 臣下たちがすぐに来て  
ひどく驚いて投げ槍を取り上げました  
彼らが来なければ王は死んでいたでしょう  
彼らは天幕を離れたのは間違いだと思っていました
- 1713 ナルボソネスとベッススはすぐに  
武装して剣を手にとってやって来ました  
他の者たちはすべて天幕から出されました  
力づくで無理やり追い出したのです
- 1714 王は非常に丈夫な綱で縛られ  
偽りの不忠者たちは彼を鎖に繋ぎました  
紫衣が剥ぎ取られ、ラシャが着せられました  
神がこのような従者たちを常に打ち倒してくださるよう

- 1715 彼らが王を天幕に放置したのではないことをご承知おきください  
他の者たちに王を連れ出させたのです  
しかし最大の敬意と最大の優しさを示すために  
そして金の鎖で彼を縛らせました
- 1716 良き王は自分の家で虜になっていました  
正しい者が裏切り者たちによって非常に残酷な扱いを受けていま  
した  
慈悲深い男に慈悲が与えられませんでした  
正義の代わりに偽りが支配していました
- 1717 ナルボソネスとベッススは、二人とも真の悪魔だったのですが  
良き王を手中に収めると  
もはや平地に敢えて止まらず  
より安全を期すため山地に入って行きました
- 1718 神の判断とはこのようになるものです  
悪人に与え、善人から奪おうとするのです  
自分の意思によってすべて事を運ぶのです  
すべての人に対して力があることを示すために
- 1719 善人には貧しさの中で生きるように苦悩を  
悪人には力と財産と富を  
狂人には脳みそを、正気の者には樹皮を与える  
それを理解できない者たちはそれを冷酷だと思う

- 1720 傑出した人物であるアレクサンダー王に  
この時確かな知らせが届きました  
ダリウスは確実にエブラクタナ<sup>176)</sup> にいて  
三度目になるが彼と戦いたがっていると
- 1721 アレクサンダーは非常に驚いて、大したものだと思います  
誰もそんなすごい事はしなかったと言いました  
彼は言いました：《この男は目に目やにがない  
そのような意欲で恨みを晴らそうとするのだから》
- 1722 彼は軍を移動させ、天幕を引き払うように命じました  
エブラクタナを包囲しに行くことを決めていたのです  
その町を破壊し、ダリウスを捕らえ  
それからさらに戦争を終わらせることを
- 1723 移動するとすぐアレクサンダーのもとに伝令がやって来ました  
ダリウスがそこから出発したと知らせるために  
そして疑いなくバクトリア人たちの所へ逃げたと  
なぜなら彼のすべての努力は失敗に終わったからです
- 1724 アレクサンダーは言いました：《こんな事をしても彼は逃げられない  
どこに行こうとも私は彼を探しに行くだろう  
世界で彼が隠れられる所はないだろう  
そこで髭を真ん中で掴まれないような》<sup>177)</sup>

- 1725 彼は近道をするため山を登りました  
それは非常な苦勞を伴うものでした  
彼は大槌より硬い悪魔だったので  
少しも苦痛ではありませんでした
- 1726 道を少し行くと  
アレクサンダーのもとに運良くより確かな伝言が届きました  
ダリウスが捕らえられ、非常に苦しんでいると  
彼にどのように事が起こったのか順序立てて伝えられました
- 1727 アレクサンダーは孔雀のような大声をあげました  
《創造主よ、そのようなひどい裏切り妨げてください  
この世界がそのすべての住民もろとも滅んでしまうべきでした  
そのような辛い事が起こる前に》
- 1728 彼はすべての有力者を会議に招集しました  
《聞いてくれ—と彼は言いました—友たちよ、ここにいるすべての  
の者たちよ  
伝言が私に届いた、お前たちに聞いてほしい  
私が信じるに、お前たちに氣にいるとは思わない
- 1729 ダリウスを臣下たちが裏切った  
大きな鎖に繋がれて、非常に苦しんでいる  
彼らは王を殺して、彼の栄光を手に入れることに決めた  
できるなら王国の君主になろうと

1730 友たちよ、彼を助けよう、神がお前たちを祝福してくださらんことを

このような大それた裏切りに復讐するのは我々に非常に大きな対価をもたらす

裏切りは決して善人たちの味方ではなかった

友たちよ、彼を助けよう、神が我々を祝福してくださらんことを

1731 助けるのに、そのような苦境は我々にとって大きな幸いである

盾と槍で彼を捕らえるよりも

どうかお前たちが遅れることがないように

彼の死は我々皆に屈辱となるのだから

1732 皆大急ぎで歩き始めました

食べることに眠ることに煩わされませんでした

非常な疲労で馬を消耗させていました

寒さも暑さも彼らに打ち勝つことはできませんでした

1733 彼らは夜も昼も休まず

ダリウスが捕らえられた所にやって来ました

しかしそこにはほんのわずかししか留まりませんでした

なぜなら裏切り者たちがどこに逃げたのか知ることができなかったからです

1734 二人の男たちがアレクサンダー王のところに急いでやって来ました

ダリウスの手の者たちで、とても豊かな貴族たちでした

彼らはギリシャ人たちと友好関係を結びたがっていました  
あのような裏切り者たちと仲間にいるよりは

1735 王は彼らを受け入れ、彼らは王の臣下になりました  
というのは彼らが武器と馬をしっかり備えていたからでした  
この者たちはギリシャ人たちを非常に良く導くことができたので  
ギリシャ人たちは夜明け前にはダリウスの近くに迫っていました

1736 二人は良く連帯していたので言いました  
《王様、用心しましょう、戦闘態勢で  
不実の裏切り者たちは用意ができています  
我々はたやすく騙されるかもしれません

1737 《私は認める—と王は言いました—お前たちが正しいことを言っ  
ていると  
我々の軍は運を信じて進もう  
裏切り者は質<sup>たち</sup>が悪いのだから  
獣の中にもあんなに悪い生き物はいない》

1738 王は経験があるので良く軍を指揮しました  
わずかな時間ですべてが整えられました  
しかし一マイルを過ぎる前に  
夜が明け昼になりました

1739 ナルボソネスとベッススは軍旗を見ると  
アレクサンダー王を待つ勇気がありませんでした

逃げようとし、待っていようとはしませんでした  
—不思議ではなかったのです、運が悪かったのですから—

1740 彼らはダリウスに馬に乗るよう命じました  
もっと早く移動できるように  
たとえ彼を囚われの身から解放することは望まなかったとはいえ  
なぜなら事が別の方向に向くのではないかと思っていたからです

1741 ダリウスは言いました：《私はここで死ぬか、  
アレクサンダー王に捕らえられる方が  
お前たちと一時間の命しかないよりは良い  
なぜなら地がお前たちを皆生きたまま飲み込むはずだったのだから》

1742 ダリウスを馬に乗せることはできませんでした  
ラバに乗せると時間がかかり過ぎると案じられました  
彼を生かしておく悪いことが起こるのを恐れ  
ついに最悪の事を思いつくことになったのです

1743 怒りですぐにダリウスを失明させようとして  
彼に必殺の打撃を加えることになり  
彼を死んだものとして立ち去ろうとしました  
どんな馬も彼らに追いつくことはできませんでした

1744 お前たちナルボソネスとベッススは呪われるように  
どこへ行こうとも不幸になるように



お前たちが食べる物はなんでも苦しんで食べるように  
なぜならお前たちは永遠に悪例を残すのだから

1745 不実者たちはさらに悪いことをしようとしました  
彼らはダリウスの馬車を引いていた馬を殺しました  
それから馬を引いていた馬方たちも殺しました  
彼らはそれを恨む者がいないだろうと思っていました

1746 悪者たちが裏切りを成し遂げると  
すぐに仲間内に不和が持ち上がりました  
各々の自分の故郷に逃げようとしたのです  
彼らは生涯相見えることはありませんでした

1747 彼らは互いに非常に近くにいました  
アレクサンダー王のもとに一人の男がやってきました—レタピエ  
ンと言う名でした—  
彼は王にダリウスはまだ生きていられると言っていました  
なぜならダリウスが殺されたことを彼が知らなかったからです

1748 彼らは大急ぎで馬で出て行き、全速力で走りました  
しかし諺にあるように、考えることは知ることではありません  
すべてはすでに然るべく定められていたのです  
なぜならダリウスは死を逃れることはできなかったのですから

1749 少ししてもっと確かな伝言が届きました  
アレクサンダーの不変の敵の戦士であるダリウスが死んだと

伝令がそのことを告げた時  
一同には王が喜んでないのが分かりました

- 1750 王は先回りして彼らに追いつことしました  
ナルボソネスとベッススはそれを避けることはできなかったでし  
よう  
しかし王には障害がありました、あなたたちにそれをお話したい  
と思います  
なぜなら私が下手な吟遊詩人だと言われたくないからです

- 1751 ダリウスの手のある者たちの中から強運の持ち主の  
すべて血筋の良い騎士たちが出てきました  
数は三千人で、皆誓いました  
戦場に留まり、恨みをすべてぶちまけると

- 1752 彼らは君主なしでは帰郷しませんでした  
君主が死んだとき、皆死のうとしました  
あるいは多分自分たちが責められるべきあると感じていました  
以前はダメでも向上しようとしていました

- 1753 しかし彼らは前にそれをより良く準備できたでしょう  
死のうとした時には、君主と共に死にたかったでしょう  
そうしたなら、もっと悪くはならなかったでしょう  
しかし創造主によって別な風に定められていました

- 1754 しかし私はてっきり彼らが騙されたのだと思います  
彼らは悪魔憑きどもがそこまですとは思わなかったのです  
なぜならその者たちは言葉が巧みだったので  
何らかの方法で彼らを手なずけたのでしょう
- 1755 ともかく悪党たちはうまくやったのです  
裏切りの言い訳をしようとした時には  
そして自分たちには非はないと十分に示しました  
なぜならもし非があったなら他の者たちと共に去っていただろう  
と
- 1756 彼らは戦いに出て、戦闘を始めました  
—ユダ・マカバイ<sup>178)</sup>もこれ以上しっかりと戦わなかったでし  
ょう—  
アレクサンダー王は言いました：《思うに  
この者たちはあまり生きる意欲を持っていない》
- 1757 ベルシャ人たちは皆死ぬ気だったので  
ギリシャ人の間で戦い、彼らを激怒させました  
ギリシャ人たちは怒って反撃しようとて  
棍棒を休ませることはありませんでした
- 1758 逃げる気のない頑固な男は  
償いのために戦場に死にに來たのです  
生きる気が全然ないので  
この世にこれ以上撃退しにくい野獣はいません

1759 彼らは急いで死んで行きました、むしろそれを求めていたのです  
 しかし彼らの成し得たことは何でも無駄ではありませんでした  
 ギリシャ人たちに襲いかかり、後ろを振り向きませんでした  
 彼らは皆一緒に死にました、自分たちが殺したように死んで行っ  
 たのです

1760 大いなる戦功のあるアレクサンダー王は  
 このようなわずかの時間ではひどい扱いを受けることはありません  
 でした  
 ペルシャ人たちはもう少しで恨みを晴らすところでした  
 ダリウスの手の者たちは目的を達成したのでしょう

1761 しかしあなたたちに長々と話すのはやめましょう  
 臣下や隊長たちは敗れました  
 老いも若きも死ぬか捕らえられ  
 大人も子供も武器を置きました

## 注

- 163) ペルシャ帝国のウクシイ族の町
- 164) ブシファルはアレクサンダーのいつもそばにいる愛馬なので、「アレクサンダーがいなければ」と同義
- 165) ウクシオンの王
- 166) ダリウスの母親
- 167) 中国西域の町、ここでは「どこか分からない所」の意
- 168) クセルクセス (Xerxes) 1 世のこと
- 169) メディア王国の首都、現在のイランのハマダン
- 170) バクトリアは中央アジアの地方の古名
- 171) ラテン語 Bene dicite

- 172) ラテン語 Dominus
- 173) ベルシャ王 Artaxerxes II の孫
- 174) ベルシャ軍のギリシャ人傭兵のひとり
- 175) 後世のキリスト教的祈り、他にも 1635 などこのような個所が数多くある
- 176) バクトリア
- 177) 中世スペインでは髭を引っ張ったり、むしれられたりすることは大変な侮辱であった
- 178) アレクサンダー没後のユダヤのヘレニズム化に対して反旗を翻したしたゲリラの指導者

## 参考図書・辞書

- Libro de Alexandre Real Academia Española Madrid 2014
- Libro de Alexandre Nueva Biblioteca de Erudición y Crítica Editorial Castalia Madrid 2007
- Libro de Alejandro Editorial Castalia Madrid 1985
- Book of Alexander Peter Such and Richard Rabone Oxbow Books Oxford 2009
- Vocabulario de Libro de Alexandre Anejos del Boletín de la Real Academia Española Madrid 1976
- アレクサンドロスの書・アポロニオの書 橋本一郎 大学書林 1991
- Diccionario Medieval Español Martín Alonso Universidad Pontificia de Salamanca 1986
- Diccionario de Castellano Antiguo Manuel Gutiérrez Tuñón Editorial Alfonsópolis 2002
- Tentative Dictionary of Medieval Spanish Lloyd A.Kasten and Florian J. Cody The Hispanic Seminary of Medieval Studies New York 2001
- Larousse Universal diccionario enciclopédico Librairie Larousse Paris 1968